まちづくり②

平戸の未来は おれたちが守る!

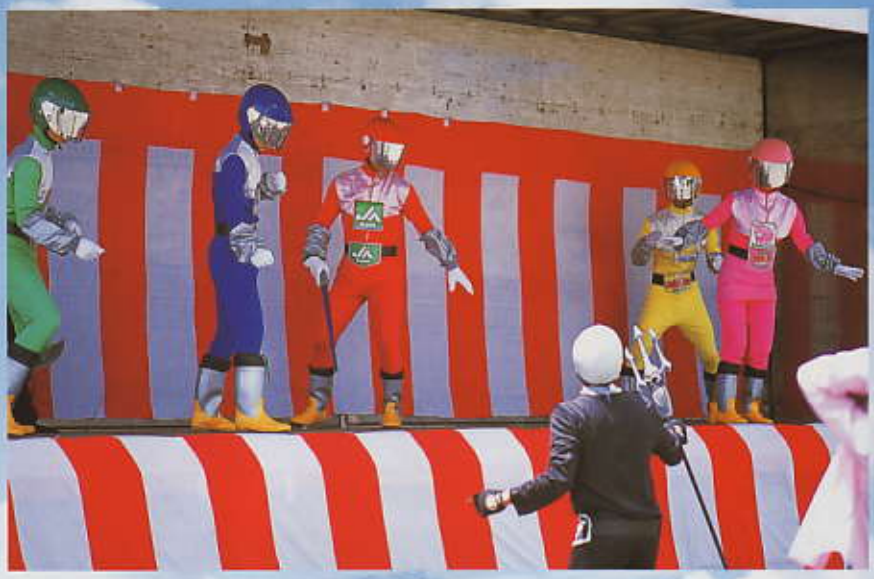
長崎・平戸市

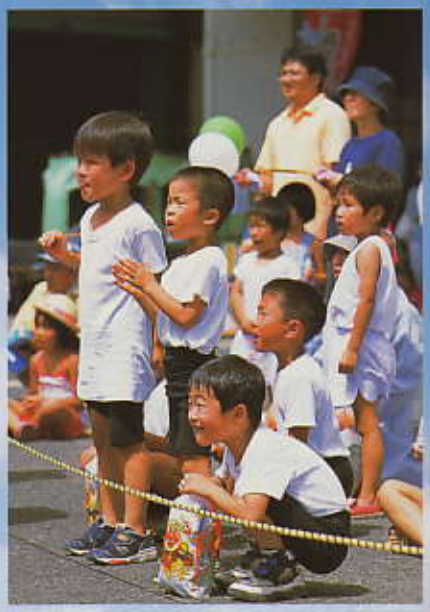
平戸防衛戦隊
ひらどしマン
HIRADOSHIMAN

平戸の未来は俺たちが守る――ひらどしマンが宿敵イジメンガーを倒したときの決めセリフ。子どもたちはこういう変身ヒーローが大好きだ。「鬼ようちょうヒーローム」とひらどしマンごっこをする学校帰りの小学生を見かけることもあるという。このヒーローを生み出したのが三十代の若者たちだ。

代表の吉原大介さん、同級生の中島潤二さんら三十代のメンバーを中心に結成されたのが二年前。商工会議所青年部での活動を通じてのつながりからだった。そこには「まちをPRしたい」との思いが込められていた。「あご（飛び魚）」「川内かまぼこ」「平戸牛」など地元の特産品をキャラクターの名前や必殺技の名前にするなど、地場産のショーを心掛けている。公演中もごぼうもちや川内かまぼこを会場の子どもたちに配って回る場面がある。

結成当時の平均年齢は三十三歳。ところが働き盛りの忙しいメンバーばかりだったことから、近所の知り合いの高校生をスカウトすることにした。今では四人の高校生に入隊してもらっている。ごぼうもちグリーンの有安祐治くん、かまぼこイエローの永富優貴くん、鬼ようちょうブルーの梶川大輔くんとイジメンガーの山村隆徳くん。「高校生は身のこなしもお腹の出具合も違うし」とは衣装担当の度島容子さん。ファンの中には「今年のイエローはスリムだなぁ」なんて言う人もいるそうだ。「三十過ぎのおっさんばかりで、アクションも全然なかった」と当時を振り返る中島さん。吉原さんたちの一歳下で現在は佐世





保在住のあこレッド・岩田雄次郎さんが加わってからアクションが派手になった。ジャパンアクションクラブに半年所属したこともあるほどアクションが好きで、平戸に帰ったときにポスターを見て、子どもの頃からの夢を実現したいと仲間に入った。

芝居は初めてという素人集団だっただけに、最初は恥ずかしくてしょうがなかったというが、子どもたちが大喜びで、それが励みになり自信もついた。それだけに出張公演のときには「子どもたちがいるかな…」と心配になるという。以前長崎での公演の時のこと。会場にはお客さんの姿がなく、通りすがりの人を無理矢理座らせて見てもらったこともあった。それから二年、県外公演も年に一、二回はこなし、各種イベントや保育園などから依頼がくる。今ではショーの後の記念撮影にも子どもたちが押し寄せる。岐阜の高山からやって来たという佐藤綾太くん（5）は、いわばひらどしマンの追っかけだ。佐世保のショーを見てからファンになり、追っかけ歴二年。「ポーズが格好良い」と言う綾太くんはなんとみそ汁もあごだし、牛肉も高山牛ではなく平戸牛のみというから驚き。

素顔を知られていないだけに面白いエピソードもある。中島さんの会社の従業員が市役所に行った折り、「この前のイベントではひらどしマンの公演大盛況だったよ」と職員が話しかけてきた。怪訝な顔をする従業員に「おたくの中島課長さん、ひらどしマンやろ」「えーっ」。飛んで帰った従業員は中島さんに「課

長つ、ひらどしマンなんですかっ!?」。正体がばれたとき、"あの中に入っている人"というのはちょっと鼻が高くなる気分だとか。しかしこんなこともある。テレビ出演して素顔が映し出された翌日。ホームページに「子どもの夢を壊さないでください」と書き込みがあったり…。

人気上昇中のひらどしマンだが、最大の敵はメンバーの家族の反応かもしれない。取材などで仕事を抜け出していたから親のウケが良くないらしい。「テレビなんてめったに出られないのに、テレビに出ることが気に入らないみたい」「暗いニュースばかりだからこそ、こういうのもいいかなぁと思うんですけどね」と言う。「配達行ってきま～す」と言い残して昼の取材を受けに"変身"するらしい。

練習場所は文化センター。しかし部屋を借りるにはお金がかかるため、ロビーの片隅で怒られながら練習するという。「体育館でも練習したけど、夏はやっぱりクーラーがないとね」とメンバー。陰に隠れた涙ぐましい努力があってこそのヒーローといったところだ。

地元の花火大会でのショーを終えた後のイジメンカー・山村くんは汗を流しながら「今日頑張れたのは、この娘のおかげです」と笑顔でガールフレンドを紹介してくれた。

■ホームページ
http://www7.tiki.ne.jp/~hirado/hiradoshi-man.htm